

# 平成29年度 学校自己評価システムシート（埼玉県立戸田翔陽高等学校）

目指す学校像	基礎的な知識・技能の習得を基本に、主体的に取り組む意欲、多様性を尊重する態度、他者と協働するための資質・能力を身につけた「人財」の育成を目指す学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教員の授業力を高め、生徒の学ぶ意欲を喚起して、基礎学力を定着させる</li> <li>2 社会を構成する「人財」としての資質・能力を身につけさせる</li> <li>3 志を高く持たせ、第一希望の進路実現を目指す</li> <li>4 開かれた学校づくりを推進し、地域の教育力を活用する</li> </ol>
------	---

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	4名
	事務局（教職員）	4名

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価（3月16日現在）			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>【現状】基礎学力が不十分な生徒もいるが、一方で学習する意欲や意識が高い生徒も多数いる。</p> <p>【課題】「主体的・対話的で深い学び」を導入しながら、わかる授業を目指して授業改善を進める。</p>	<p>・学習状況を見直して、生徒一人一人の基礎学力を高める。</p>	<p>①家庭と連携しながら、進路希望に合わせた丁寧かつ適切な履修指導を実施する。</p> <p>②多文化共生推進委員、学習サポーターの活用等、県の事業を活用して学習環境を整えさらに学習状況を調査する。</p> <p>③習熟度別授業（英・国・数）や少人数学級編制や2人担任を実施する。基礎学習を徹底するために補習の在り方を見直す。</p>	<p>①学校満足度の数値を向上させる。（昨年度77.6%）</p> <p>②生徒の履修科目の単位修得率を昨年度以上にする。（昨年度92%）</p> <p>③成績不振者（評定1）の割合を昨年度以下にする。（昨年度28%）</p>	<p>生徒一人一人の基礎学力の向上にむけて継続的な指導を続けている。</p> <p>①学校満足度は、生徒は78.0%と微増し、また保護者は90.1%と高い数値を維持している。</p> <p>②履修科目の単位修得率は95.2%で、昨年より3.2ポイント向上している。（2学期末）</p> <p>③成績不振者（評定1）の割合は24.0%で、昨年より4.0ポイント減少している。（2学期末）</p> <p>③1学期終了後に卒業予定者に追認定試験を導入し実施した。土日を利用した数学、英語の進学補習を実施した。</p>	A	<p>次年度への課題と改善策</p> <p>学校満足度、履修科目の修得率については今後も向上させる取り組みを続け、成績不振者の割合は20.0%を目標とする。</p>
		<p>・指導内容を工夫し、わかる授業を展開する。</p>	<p>①教職員相互授業観察を実施する。</p> <p>②未来を拓く「学び」推進事業を活用したアクティブ・ラーニングを実施する。</p> <p>③生徒が行う授業評価を実施する。</p> <p>④各教科が定めたミニマムリクワイアメントを完全修得させる。</p>	<p>①年次研修研究授業とは別に、年2回以上 教職員相互授業観察を実施する。</p> <p>②公開事業を実施し協調学習や研究授業を実施する。</p> <p>③④生徒の授業理解度5段階中4以上の割合を昨年度以上にする。（昨年度1年次国77.3%数69.6%英53.3%）</p>	<p>指導内容の工夫によるわかる授業の展開は、改善の余地はあるものの概ね達成できている。</p> <p>①教職員相互授業観察実施期間に、全ての教員が2回ずつ教職員相互授業観察を行った。（9月2週間）</p> <p>②協調学習公開を行い、4講座を公開し、研究協議会を開催した。（10/2）</p> <p>③④1年次国語77.1%、数学64.3%、英語56.2%と昨年度と同程度の水準となった。</p>	B	<p>相互授業観察や公開授業を引き続き行うとともに、よりわかる授業を展開する。コア科目を通じた国語、数学、英語の学力の向上を推進する。</p>
2	<p>【現状】他者とのコミュニケーションを取ることが苦手な生徒や基本的な生活習慣が身につけていない生徒がいる。</p> <p>【課題】中途退学を防止するため、学校生活に適應する力を高める。</p>	<p>・中途退学防止のため、丁寧に粘り強い積極的な生徒指導を実施する。</p>	<p>①全教職員が統一基準で指導する。（ノーチャイム・ノーアナウンス、日常的な整容指導、声掛け指導等、安心安全指導）</p> <p>②保護者と緊密に連携しながら、問題を抱える生徒を卒業させる。</p> <p>③指導力の向上と協働体制を確立する。（昨年度から導入した1年次2人担任制をさらに改善する。）</p>	<p>①遅刻者数の減少。</p> <p>②中途退学者数（前年度36名）の減少。</p> <p>③問題を抱える生徒に関する情報の共有を徹底する。（出席率を昨年度（88.4%）以上にする。）</p>	<p>各担任を中心に、担任団、教育相談、保健室等の連携によりきめ細かな指導を行うことができ、目標をほぼ達成できている。</p> <p>①遅刻指導を行うクラスも見受けられるなど改善していると思われる。全体の遅刻率7.4%（2/28現在）</p> <p>②担任間の情報共有がしっかりととなされ、よりきめ細やかに生徒一人一人に対応することができた。</p> <p>③退学者数は27名となっている。（3/16現在）</p> <p>③授業出席率は87.5%（4/1～2/28）であり、昨年度の現時点とでは、ほぼ横ばいである。</p>	A	<p>退学者数は減少しているが、今後一人一人を「人財」として大切にすることから、今後さらに退学者数を減らすことへの生徒の意識を向上させる働きかけをする。</p>
		<p>・教育相談体制を充実させて、カウンセリングマインドで対応する。</p>	<p>①生徒アンケートを活用した教職員研修を専門研究者等を講師として実施する。</p> <p>②教育相談部や生徒指導部を中心に組織的な取組を行う。</p> <p>③随時、各年次間の情報交換を密に行う。</p>	<p>①年2回以上教職員対象の研修を実施する。</p> <p>②生徒・保護者からの教育相談に適切に対応できるSC、SSW、教育相談員を計画的、効果的に配置する。</p>	<p>教育相談体制の活用はほぼ達成できた。</p> <p>①教育相談教職員研修を年1回実施し（7/21）、高校生自立支援事業によりSSWを年3回実施した。（7/18、12/18、12/21）</p> <p>②教育相談員相談者延べ人数は、生徒324名、教員297名、保護者51名、計672名。SSW相談者数は延べ706名。SCの相談者数は延べ140名。</p>	A	<p>教職員研修を年2回実施し、SC、SSW、特別巡回支援員から研修を受けることでカウンセリングマインドを向上させる。</p>
3	<p>【現状】キャリア意識がなかなか高まらない生徒がいる一方、進路希望や自己実現への意欲が高い生徒の割合も年々高くなっている。</p> <p>【課題】キャリア意識や意欲への指導喚起が求められる。</p>	<p>・将来を見据えた進路意識を確立する。</p> <p>・キャリア教育の指導計画や実践を充実する。</p>	<p>①総合学科の設定科目「産業社会と人間」の指導をキャリア教育と連携させ、計画的に実施する。</p> <p>②分野別説明会や模擬面接を行い、進路意識を持たせる。（昨年度88.4%）</p> <p>③外部資格受験を奨励し、資格を取得することを促進する。</p> <p>④学習サポーター制度を活用する。</p>	<p>①「産業社会と人間」を通して1・2年次における進路未定者を減少する。</p> <p>②進路実現決定率を昨年度以上にする。（昨年度88.4%）</p> <p>③検定試験合格者数（昨年度47人）を増やす。</p> <p>④成績不振者（評定1）の割合を昨年度以下にする。（昨年度28%）</p>	<p>キャリア教育の指導計画およびその実践は充実してきているが、より生徒の希望進路の実現のための改善が必要である。</p> <p>①「産業社会と人間」の授業を通して進路意識の向上に取り組んだ。業者と連携した進路ガイダンス年13回実施。</p> <p>②進路決定率81.5%である。（3/16現在）現在も進路活動中のため数値は今後向上する予定。</p> <p>③検定試験合格者数115名。（3/16現在）</p> <p>④学習サポーター（8名）の制度を活用し、成績不振者（評定1）の割合は24.0%で、昨年より4.0ポイント減少している。（2学期末）</p>	B	<p>より積極的な進路活動をする生徒が増えていることから、今後さらに生徒の自己実現に向けた丁寧な指導を行う。高大接続に関係する改革にともない生徒の基礎学力の向上に向けた取組みを推進する。</p>
		<p>・外部機関を積極的に活用して、進路希望を実現する。</p>	<p>①基礎力診断テストを効果的に活用する。</p> <p>②自学自習システムを活用する。</p> <p>③教職員の進路指導力向上研修を実施する。</p> <p>④NPO法人与自然連携してキャリア教育を充実する。</p>	<p>①1年次に基礎力診断テストを年度当初と年度末の2回実施する。</p> <p>②民間業者の導入と、利用者の進行管理を行う。</p> <p>③①②のデータを基に学力向上研修会を実施する。</p> <p>④SSTによる全校生徒面談と社会体験学習を実施する。</p>	<p>外部機関の積極的な活用は概ね達成している。</p> <p>①1学期に基礎力診断テスト（4/18：1年次対象）を実施し、3学期に基礎力診断テスト（3/15、16：全年次対象）を実施した。</p> <p>②スタディサプリの利用状況には、課題が残る。（利用者38名）</p> <p>③進路指導力向上研修会を実施した。（11/30）</p> <p>④全校生徒に個人面談（7月、12月）、3年次社会体験（12/19）、SSW年3回（7/18、12/18、12/21）、全校生徒に自己肯定感と学校適応感の調査年2回を実施した。</p>	B	<p>IT環境の利便性は向上しているが、生徒一人一人の学習に関する進行管理や意識改革が必要である。</p>
4	<p>【現状】本校の教育内容と教育活動の理解を一層推進する必要がある。</p> <p>【課題】地域との交流や積極的な広報活動が求められる。</p>	<p>・行事やボランティア活動に積極的に参加して、地域との連携を強化する。</p>	<p>①生徒、教職員の地域の行事等へのボランティア参加を積極的に行う。</p> <p>②地域の教育力を活用したインターンシップを実施する。</p>	<p>①地域でボランティア等に従事する生徒の延べ人数を増加させる。（目標50名）</p> <p>②インターンシップ参加者数（昨年度25名）を増やす。</p>	<p>地域との連携は、より充実してきている。</p> <p>①地域でボランティア等に従事する生徒の延べ人数145名で昨年より増加している。増加単位数30名である。</p> <p>②インターンシップ参加者数は25名で、昨年度と同程度となっている。</p> <p>③戸田市高校生議会、戸田市自治基本条例フォーラムに計14名の生徒が参加をした。</p>	A	<p>ほぼ達成しているが、今後さらに地域と連携した活動の充実を推進する。</p>
		<p>・学校公開や学校説明会等を積極的に実施し、地域との情報交換を密に行い、連携を深める。</p>	<p>①学校説明会、体験入学、文化祭等の実施による本校来校者を増やす。（昨年度1,583人）</p> <p>②学校説明会、学校見学会受け入れ、ホームページの充実等を活用し、積極的に広報活動を行う。</p> <p>③地域に信頼される学校づくりを工夫する。</p> <p>④地域町内会へのアンケートを実施する。</p>	<p>①来校者数を昨年度以上にする。（昨年度1,583人）</p> <p>②I部・II部の入試倍率を昨年度以上とし、III部の定員を確保する。（昨年度I部1.18倍II部1.60倍III部0.71倍）</p> <p>③交通安全マナー、防災拠点校としての避難訓練を計画し実施する。</p> <p>④学校への好感度を向上させる。</p>	<p>地域との情報交換は概ね達成できている。</p> <p>①学校説明会は547組が来校した。文化祭は1,088名が来校した。</p> <p>②今年度入試倍率は、I部1.29、II部1.40、III部0.69となった。</p> <p>③不登校シンポジウムを本校で開催した。外部から91名参加。（6/24）</p> <p>④避難訓練（1）は4月に、避難訓練（2）は10月、また交通安全教室を7月に実施した。</p> <p>④新曽町内会地区アンケート：学校全体の雰囲気72.0%、生徒の様子61.0%（5段階評価のうち「とても良い」「ほぼ良い」の割合）</p>	B	<p>戸田市との連携事業が計画実施されているが、地元新田町の方々との交流が課題として残っている。また、学校行事でのアンケートの実施と、それに基づく改善を行う。</p>

実施日 平成30年2月6日

学校関係者からの意見・要望・評価等

- ・基礎学力向上への取組みは評価できる。現在の取組みをさらに前進させて、生徒の基礎学力を向上させてほしい。
- ・協調学習などの学習方法に積極的に取り組んでいることは評価できる。今後とも、多様な学び方を工夫して生徒の指導にあたってほしい。
- ・きめ細かな指導により、生徒一人一人に粘り強い指導を行い、その結果、退学者数も減少してきている。地域の中学校にも、その状況が理解されつつあるのだと感じる。また、複数担任制というシステムで1年次を、3クラス編成で上級年次を手厚く指導していることは安心感がある。今後とも粘り強い指導を継続してほしい。
- ・就職を含め、生徒は卒業後の進路について考えていることは評価できるが、進路実現に向けた生徒のさらなる意欲の向上と、昨年度同様に、進路決定後の社会人としての心構えの醸成に今後とも継続して取り組んでいただきたい。
- ・戸田翔陽高校の地域での評価は昨年同様に向上している。今後も、さらなる学校の好感度アップに取り組んでほしい。
- ・地域との交流である戸田市商工祭へのボランティアなどの取組みには、次年度以降も積極的な参加を期待している。
- ・一方で、戸田翔陽高校について、まだ十分に理解していない近隣の方もいるので、次年度以降、さらに積極的な広報活動をするよ。